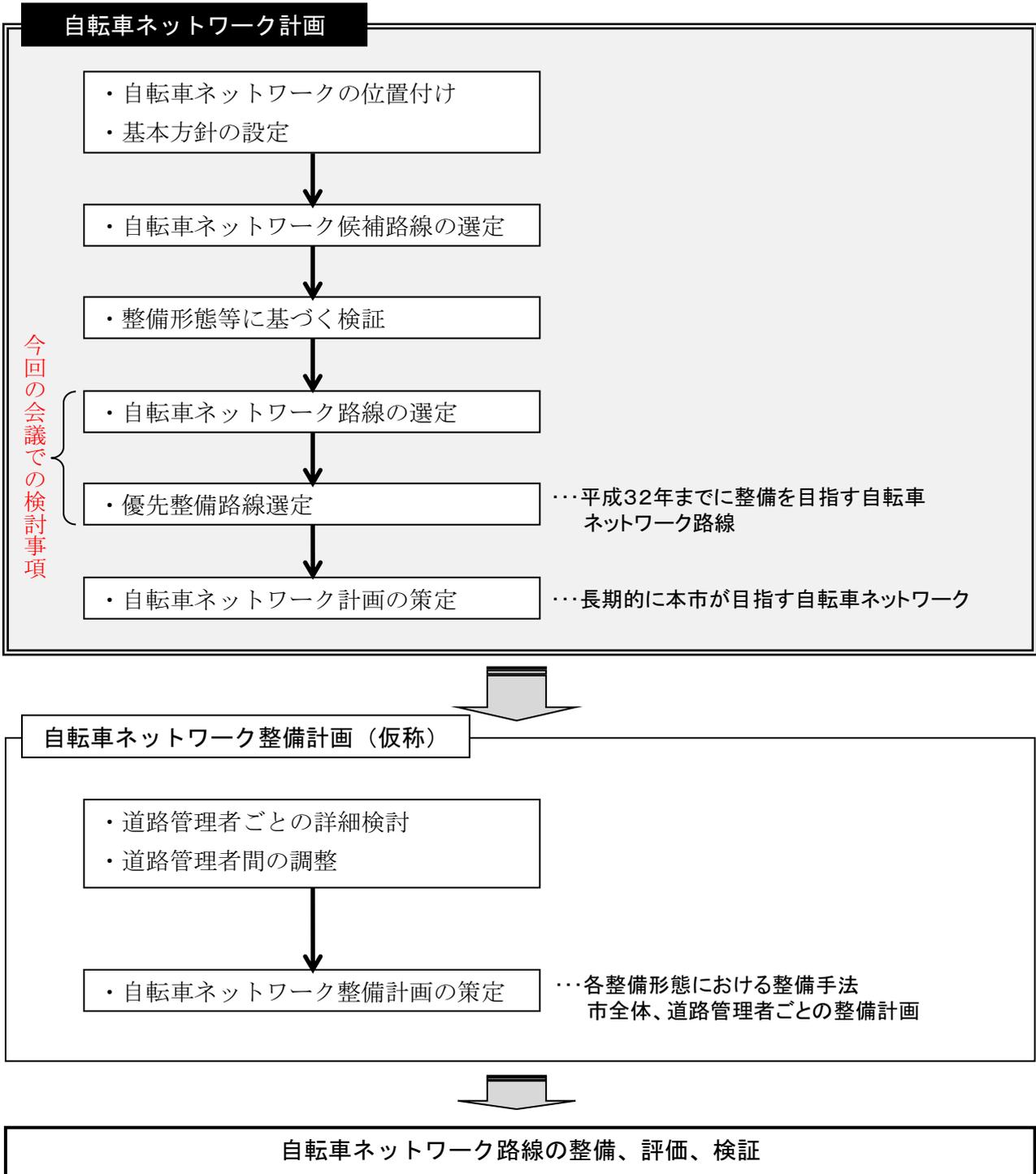


1. 自転車ネットワークの検討の流れ

○国土交通省、警察庁の「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」における検討の流れに従いながら、「通勤」「通学」「買物」の3つの利用目的に着目し、自転車ネットワークを検討する。



2. 自転車ネットワーク路線の選定

2.1 ネットワーク候補路線

○「通勤」「通学」「買物」の3つの目的毎のニーズを把握し、ネットワーク候補路線を設定し、前回委員会で提示した。

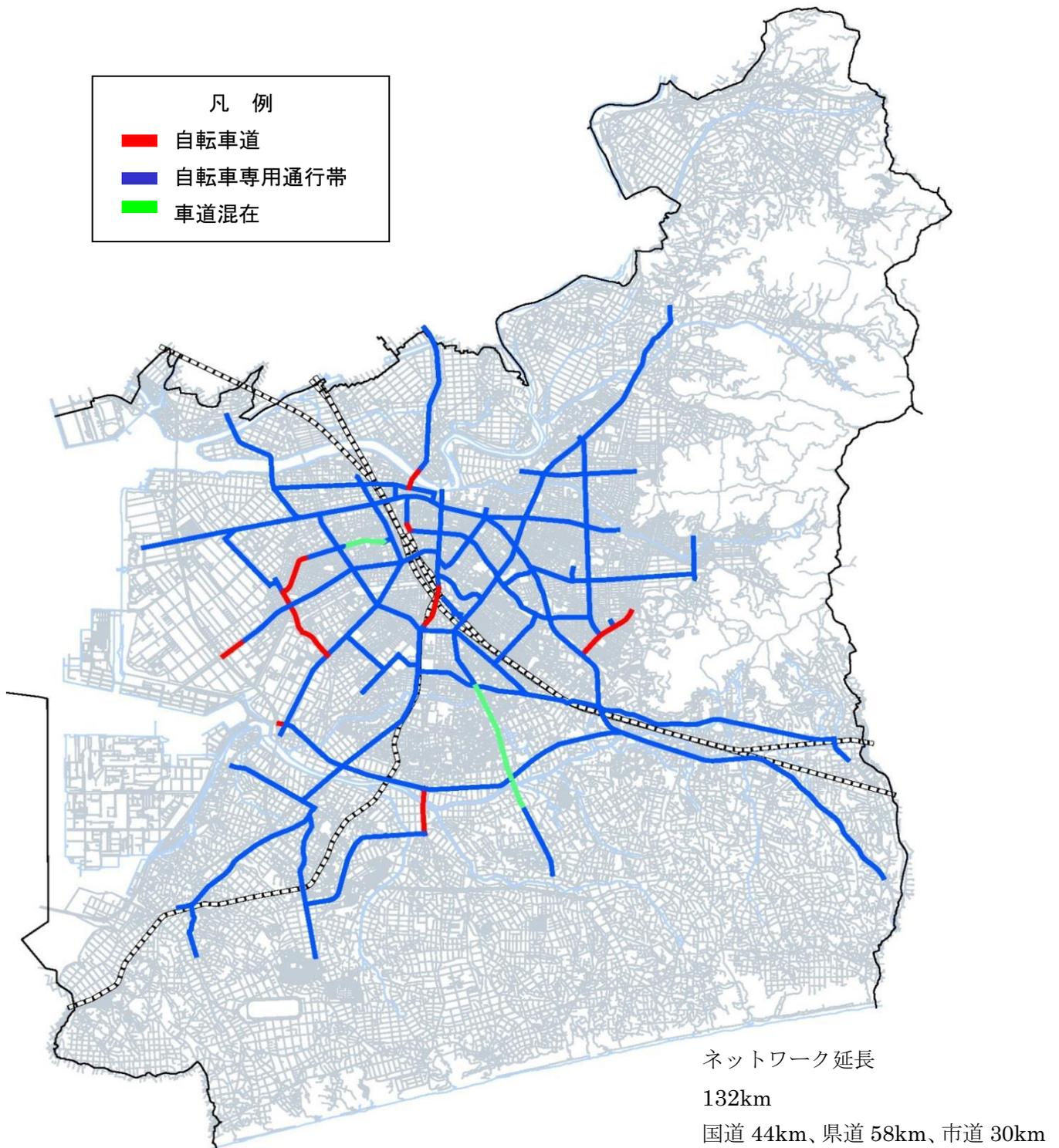


図 自転車ネットワーク候補路線とガイドラインの目安に従った整備形態（前回委員会提示）

2.2 ネットワーク路線

- 前回委員会で提示した自転車ネットワーク候補路線をもとに、ガイドラインの目安に従った整備形態での整備の検討等を行った上で、国、愛知県や豊橋市の各道路管理者と協議し、ネットワーク路線を設定した。
- なお、図に示した整備形態はガイドラインの目安に従い設定したものであり、実際の整備形態については、今後道路管理者による協議の中で検討していく。

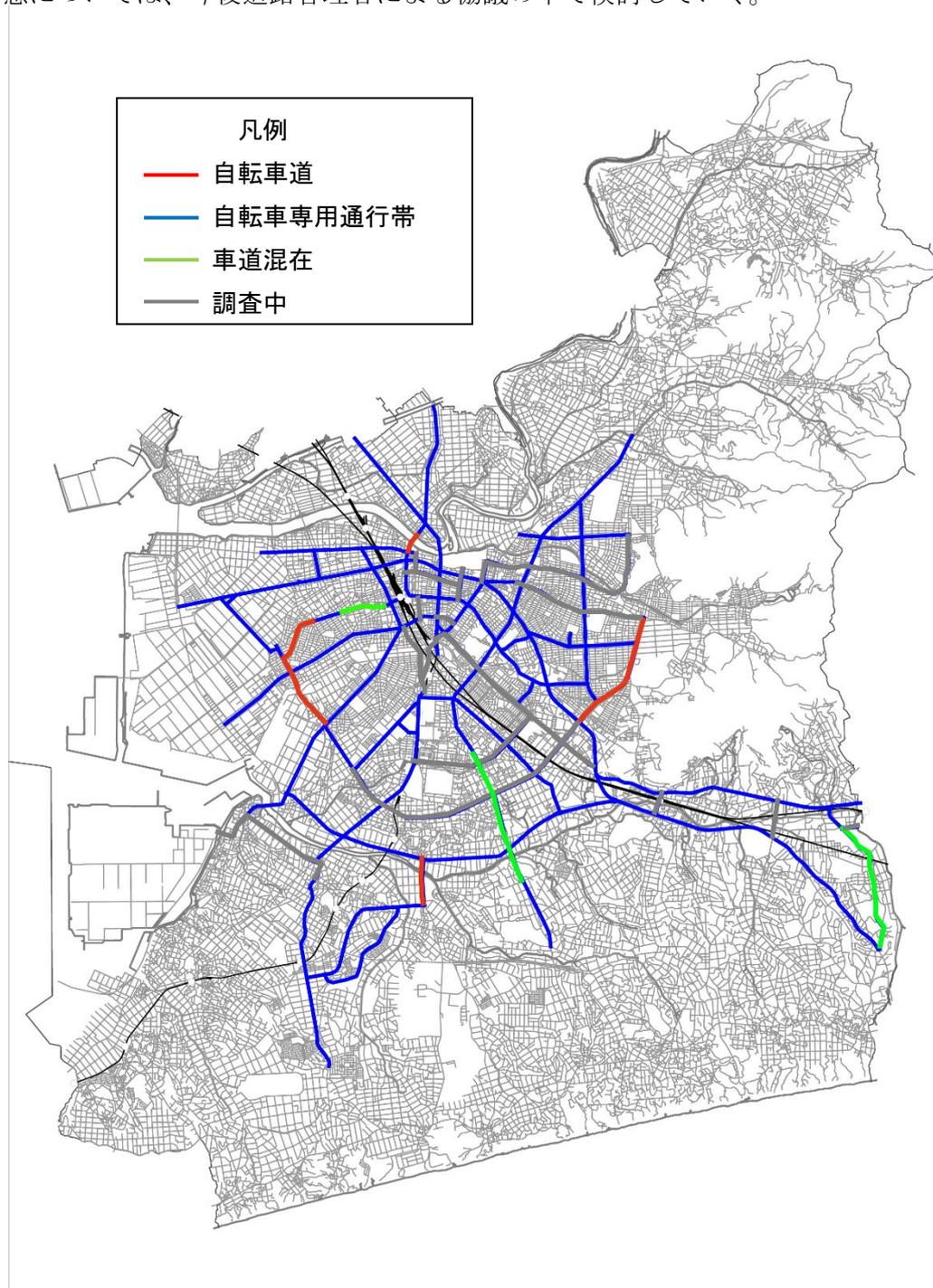


図 自転車ネットワーク路線とガイドラインの目安に従った整備形態

○自転車ネットワーク路線を国道・県道・市道で区分けしたものは以下の通りである。

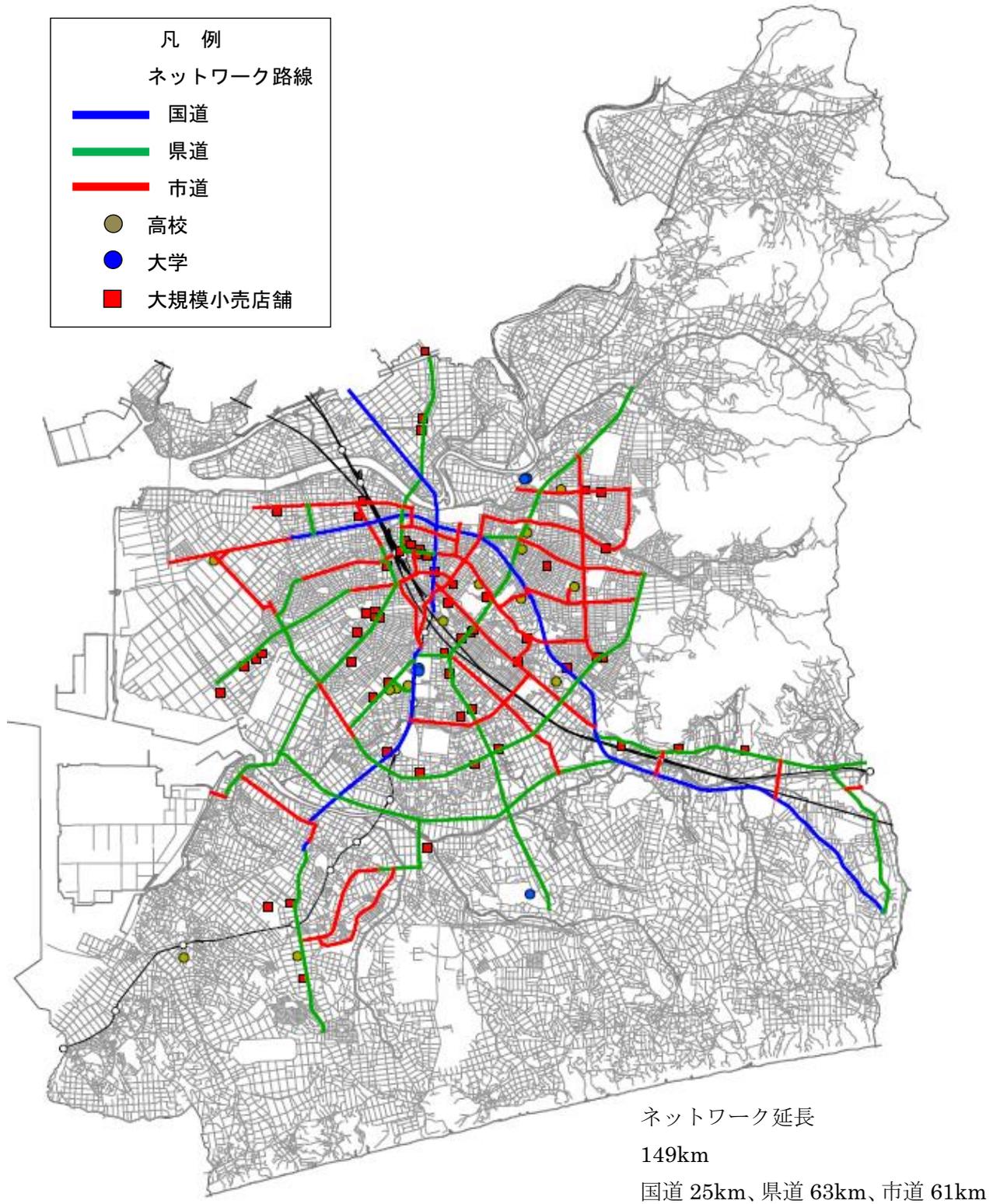


図 国道・県道・市道ごと区分けした自転車ネットワーク路線

3. 優先整備路線の検討

- 優先整備路線の検討においては、自転車活用推進計画における施策、上位計画や自転車の利用状況等から早期に自転車ネットワークを形成することが望ましい地域を設定する。
- この地域をベースにし、複数目的の自転車の利用ニーズを踏まえ、整備効果や整備の可能性を検討し、優先整備路線を設定する。

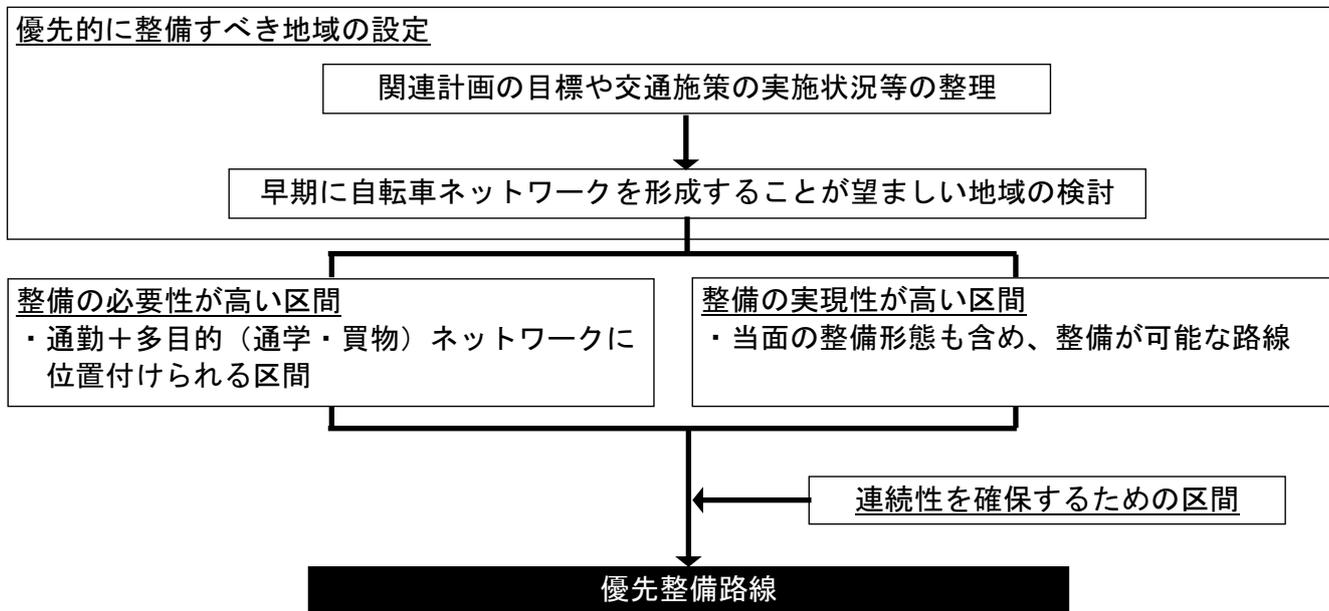


図 優先整備路線の検討の流れ

3.1 優先的に整備すべき地域の設定

(1) 豊橋市自転車活用推進計画における施策

○主要な実施施策に「通勤時の自転車利用への転換促進」を掲げ、自転車通勤への転換を促すため自転車ネットワーク路線を重点的に整備するとしている。

(2) 関連計画の目標や交通施策の実施状況等の整理

○本市の上位計画（第5次豊橋市総合計画・豊橋市都市計画マスタープラン・豊橋市都市交通マスタープラン）において、自転車に関する施策は次のとおり位置付けられている。

第5次豊橋市総合計画

自転車の位置付け	1. 環境実践都市プラン ○コミュニティサイクル推進プロジェクト 「エコ通勤の推進」「サイクル&ライドの推進」
----------	---

豊橋市都市計画マスタープラン

自転車の位置付け

2.公共交通分野

○三河港の臨海部や県境部など大規模な事業所が集積した地域において、通勤時などピーク時の渋滞緩和や環境負荷軽減を図るため、自家用車以外の通勤交通手段に転換を促す取組みを進めます。

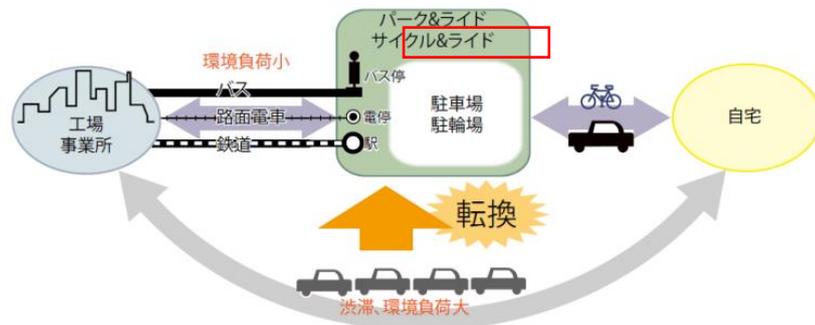


図 自動車以外の交通手段による通勤交通への転換イメージ

豊橋市都市交通マスタープラン

自転車の位置付け

○交通手段別の方針

・自転車は通学や端末交通として身近で環境にやさしい交通手段であることから、走行・駐輪などの利用環境の構築を進めるとともに、普及啓発を勧めます。

○主な取り組み

- ・徒歩・自転車のための道路整備
- ・近郊・郊外部の交通結節点の整備
- ・パーク&ライド・サイクル&ライドの推進
- ・交通意識の変革促進プログラムの作成・実施
- ・環境行動に関する特典制度の導入

○サイクル&ライドを推進する拠点：

・二川駅、大清水駅、高師駅、南栄駅、赤岩口駅、和田辻付近

○時差通勤や交通意識の変革プログラムの作成など通勤の転換への取組を実施する地域

・臨海部や県境部の工業地域

(3) 5 km以下の自家用車通勤の整理

○自家用車通勤から自転車通勤へ転換する可能性を検討するにあたり、5km以下の短距離で自転車は自家用車より早く目的地に着くことのできる移動手段と言われていることから、5km以下の自家用車通勤が多い地域を自転車通勤への転換が期待される地域として以下のとおり抽出した。

○地域としては、西部地域、東部地域、富士見台・大清水地域、県境地域があげられる。

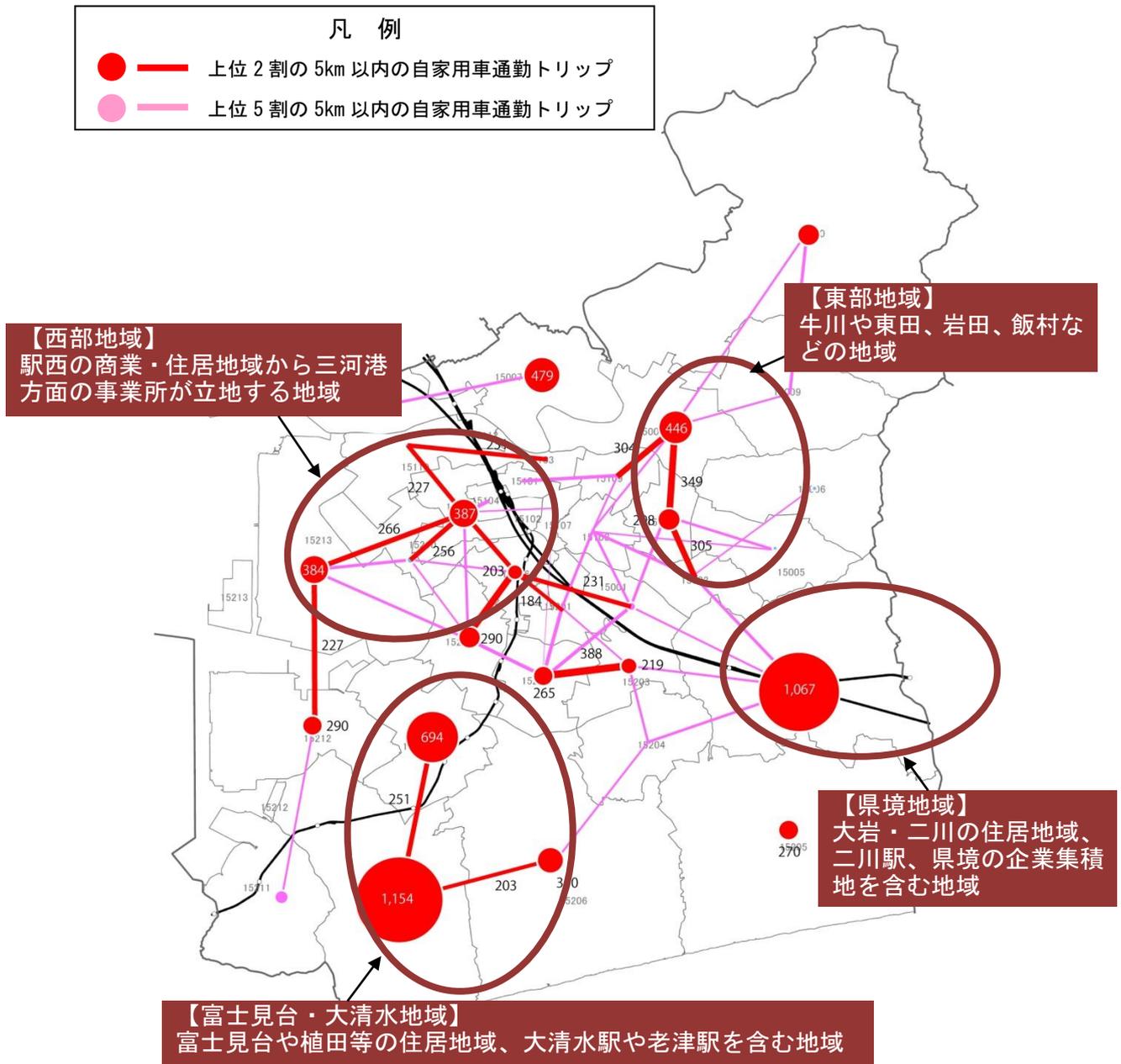


図 自転車通勤への転換が期待される 5km 以内の自家用車通勤のトリップ

自家用車通勤のトリップ：平成 13 年中京圏パーソントリップ調査より

(4) 早期に自転車ネットワークを形成することが望ましい地域の検討

○第5次豊橋市総合計画ではエコ通勤の推進、都市計画マスタープランでは自動車以外の交通手段への通勤交通の転換が挙げられているなど、通勤時における自家用車から自転車、公共交通への転換が本市の方針の一つとしてあげられている。

○そのため、通勤目的を主体としたネットワークを早期に実現することとし、豊橋市交通マスタープランで通勤の取り組みを行う地域としてあげられており、現在、エコ通勤の取り組みを推進している県境地域、短距離の自家用車通勤のトリップが多い中心地域（西部・東部）、富士見・大清水地域を早期に着手する対象とする。

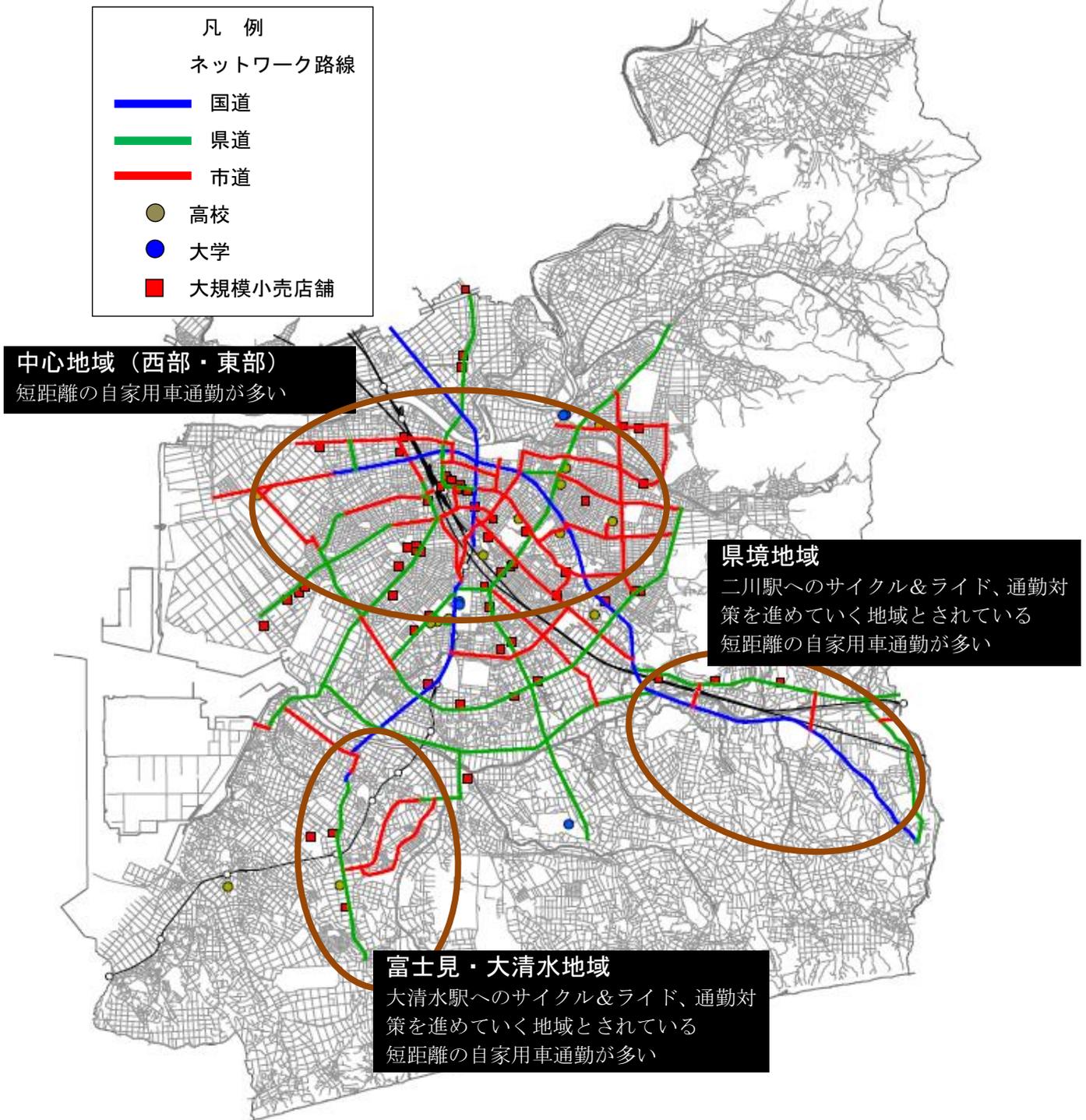


図 早期に自転車ネットワークを形成することが望ましい地域